



苫小牧市議会議員

小山 征三

# 通信

『冬』号

2013. 1. 1

小山せいぞう後援会

苫小牧市ときわ町1丁目19-23

TEL0144(67)8255

## 恭賀新年

昨年中は、小山征三 並びに後援会に温かいご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。本年もよろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。  
平成25年 元旦



※※※※※※※※※ 12月13日 市議会 総合開発特別委員会 ※※※※※※※※※

### ガントリークレーン事故、仮復旧だけで2,000万円

苫小牧港東港区では、新しい国際コンテナターミナル整備へ市や道・国が平成13年度から事業費460億円を投じて、耐震強化岸壁、ガントリークレーン（コンテナ貨物を積み卸しするクレーン）、コンテナヤードなどの整備を進めてきました。そして、昨年、24万m<sup>2</sup>の広大なコンテナヤードと道内最多のガントリークレーン3基を有する国際物流拠点として誕生したのです。

私は、12月13日の総合開発特別委員会で、同月6日に発生したガントリークレーン2基の衝突事故について、管理運営のあり方と責任の所在を追及しました。事故発生当日は、午前5時31分に暴風警報が発令されているなか、午前8時5分から作業を開始。その後、中断したものの強風により隣のガントリークレーンに衝突したのです。ガントリークレーンの事故は、平成18年に新潟港で強風により負傷者3名を巻き込む事故が発生しました。平成20年には小名浜港（福島県）で、平成22年には御前崎港（静岡県）で強風による同様の事故が起きています。

#### ガントリークレーン事故

#### 事故調設置求める

総合開発特別委

苫小牧市議会の総合開発特別委員会（木村司委員長）は13日開かれ、今日6日に苫小牧港・東港の国際コンテナターミナルで発生したガントリークレーンの接触事故などについて質疑が行われた。小山征三氏（民主・市民の風）が当日の業務の在り方と対応の問題点を指摘。原因究明に向けた事故調査委員会の設置を理事者に求めた。

小山氏は、同日早朝の段階で暴風警報が出されていたにもかかわらず、接触事故の前に荷役作業を行っていた点を問題視。作業の判断の理由をたずねた。理事者は「作業開始の段階では風速4メートル以上は可能と判断した」と説明している。

小山氏は、国交省が強風時のガントリークレーンの安全対策について5月に通知を出

苫小牧民報 12月13日(木)

当時、これらの事故を重く見た国土交通省は、平成22年に「ガントリークレーンの風に関する安全対策について」で、「運用規程の整備」と「強風時の作業中止を判断する風速の設定」を見直すよう港湾局から港湾管理者（苫小牧市長）に通知していますが、今回の事故まで運用規程の整備も行わず、安全管理は、各荷役業者に丸投げであることが判明しました。

また、労働基準監督署などへの通報体制も確立されてい

ないことも分かり、明らかに管理者責任が問われるものとして事故調査委員会の設置を求めましたが、市長は今後の原因究明の中で明らかになるという趣旨の消極的な答弁でした。ガントリークレーンの仮復旧工事に2,000万円を要し、さらに完全復旧には4ヶ月の期間と多額な経費を要することから、行政責任をしっかりと求めていく必要があります。

#### 暴風被害 苫小牧東港クレーン 仮復旧費用2000万円

市が見直し

苫小牧東港区・国際コンテナターミナルで、6日、コンテナの積み降ろしを行うガントリークレーン1基が暴風にあおられ、隣のクレーンに接触した事故で、苫小牧市は13日、1基は20日にも復旧作業を完了する見込みを示した。市は、1基は20日にも復旧作業を完了する見込みを示した。市は、1基は20日にも復旧作業を完了する見込みを示した。市は、1基は20日にも復旧作業を完了する見込みを示した。

規定を、港管理組合と示した。（阿部里子）

## 12月議会報告

第7回、市議会定例会は12月6日（木）から同月14日（金）まで開かれました。私の一般質問の順位は、抽選で17番目となり10日夕方に行われました。

### 消防本部・署・団本部の 新庁舎建設へ ＝屋内訓練センターも併設＝

新たな防災拠点の構想では、現在、市役所4階の消防本部・団本部と末広町の消防署を一箇所に集約して、消防体制を機能強化するため新庁舎を新開町に建設することを明らかにしました。さらに、屋内訓練センターを併設し、市民が参加・体験でき、防災意識の向上につながる施設とすることも検討中です。

建設時期は、平成25年度に実施設計、26、27の両年度で指令センターやシステムの整備を行い、平成28年度の運用開始を予定しています。

一方、これに伴い、住吉出張所の廃止問題や救急車の配置見直しを検討されていることから「市民の安心と安全」を損なわないよう体制としなければなりません。

### 高齢者福祉行政、またも軽視か？

高齢者の交流、親睦を深める行事を支援する交通手段として、高齢者福祉センターでは、福祉バスを運行しています。私は、昨年の利用者数が2,326人で、利用回数が75回という、例年並の利用がある中で福祉バスの廃止が検討されていることを取り上げました。一昨年の予算委員会の質疑では、民間移譲する交通部のバスの無償譲渡を受けてはという提案も浮上しましたが、現在所有している1台で運行は可能との答弁でした。

高齢者福祉事業は、平成24年度には、敬老会の助成金が廃止され、仮に平成25年度に福祉バスを廃止するのであれば高齢者福祉の切捨てであると指摘し、見解を求めました。市側は、バスの老朽化や運転手の確保も困難なことから老人クラブの意向を踏まえ、補助金という形での対応を検討していることを明らかにしました。

### 小山征三の一般質問

#### 1 防災対策

(1) 防災拠点の構想について

#### 2 福祉行政

(1) 福祉バスについて（存廃）

#### 3 救急医療

(1) 救急救命士の病院実習について

(2) 道立苫小牧病院について（必要性）

#### 4 財政

(1) 交付金事業について（あり方）

(2) 基金条例について



苫小牧市は、新開町に整備する消防の新拠点施設について、市民の防火、防災意識の向上につながる屋内訓練セン

## 新開町 新消防庁舎に 屋内訓練センター

「防災意識向上へ」と検討

市議会定例会一般質問

## 苫小牧民報

2012年12月11日

また、理事者側は新庁舎に消防本部、消防署、消防団本部を集約するほか、住吉出張所を消防団詰め所として16年度をめどに運用する考えも説明。庁舎整備財源について石油貯蔵施設立地対策等交付金を活用して基金造成する考えも示した。

また、理事者側は新庁舎に消防本部、消防署、消防団本部を集約するほか、住吉出張所を消防団詰め所として16年度をめどに運用する考えも説明。庁舎整備財源について石油貯蔵施設立地対策等交付金を活用して基金造成する考えも示した。

ターの設置を検討していることを明らかにした。拠点施設は2016年度の運用開始を予定している。10日に開かれた市議会定例会で小山征三氏（民主・市民の風）の一般質問に答えた。理事者側は13年度に実施設計、16年度運用開始を予定していると説明した。小山氏が防災センター機能の付加の必要性を指摘。理事者側は屋内訓練センターに触れて、「市民が体験でき、隊員の訓練を見学できるなど、市民の防火、防災意識の向上につながる仕組みを検討したい」と答弁した。今後防災拠点の要素や市民参加型施設としての側面をどの程度付加するか検討する。訓練はこれまで東部の屋外訓練所で行っていた。全天候型となることでいつでも訓練でき、救助隊以外の多様な訓練も可能になりそうだった。

### 石油立地交付金、3,900万円の残！

本市の平成24年度予算編成で、私は石油貯蔵施設立地対策等交付金を当初予算に全額組入れなかったことを指摘。そして、3,900万円の未交付金があることが明らかになりました。石油立地交付金は、年度内に事業を完了しなければならないため、既に公共施設の事業としては執行できなくなっています。市側は、2月の議会で石油立地交付金の基金を創設し、補正予算で積み立てることを明言しましたが本来、基金の創設は、事業計画の全体像、規模、毎年の計上予算など明確に示さなければなりません。そのため多くは、新年度の予算編成時に創設し、予算審議と併せて行っています。事業をご都合主義的に行う基金条例は、過去に例が無く、明らかに予算編成上のミスがあったと言えます。今年の2月議会では、どのような形で示されるのか、注視しなければなりません。

《熱血現場主義》 小さなことでも身近な問題を地域から発信しますので、よろしくお願いします。